

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

土浦平和の会

ニュースNO・125 2003年1月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 831-9122



ブッシュの「核・軍事帝国主義」を許さず イラク攻撃・有事法制ノー の声をさらに大きく

代表理事 齊藤房雄

ブッシュ米政権は、イラクへの一方的軍事攻撃を口にするばかりか、イラク周辺に大量の軍隊や装備を送り込んで戦争準備の態勢を強めています。

これは、自分の気に入らない政権は武力で転覆するという覇権主義の発動そのものです。ここに、戦争の現実的危険があります。

しかし、戦争反対の声は、戦争になれば重大な攻撃を直接受ける中東諸国はもちろん、各国首脳がこぞって表明しております。

1月22日に仏独両国首脳がイラク問題で「戦争回避へ共同」の表明をしたと新聞に報じられていますが、このような動きが、いまや国際政治の大きな流れになっています。

武力行使の機をうかがうブッシュ政権は、こうした世界の趨勢に逆らうものであり、断じて許せません。ブッシュ政権は、イラクが大量破壊兵器を開発・保有しているとして、それをイラク攻撃の口実にしていますが、国連安保理決議1441は、イラクの違反があった場合でも、それを安保理で検討することをきめており、いま、そのために査察が進められているのです。

これを無視し、声高に戦争を口にするブッシュ米大統領の言動はまさに「核・軍事帝国主義」そのものといっていでしょう。

ところで、重大なのは、小泉内閣がイラク問題でアメリカと「緊密な強調」を誓約し、有事法制整備促進とあいまってイージス艦をインド洋に派遣するなど、戦争支援に突き進んでいることです。

福田官房長官は、イラク攻撃を前提にした「法的整備」が必要と述べています。山崎自民党幹事長は、国連決議なしのアメリカの武力行使容認の発言までしています。

このような動きのなかでわたしたちに求められるのは、ブッシュ米政権のイラク攻撃と小泉政権の戦争支援に断固反対することだと考えます。

イラク攻撃・有事法制ノーの運動をいっそう盛り上げる決意を表明します。

行事ごよみ

- | | |
|---------------------------------------|------------------------|
| 1・18 県平和委常任理事会 (水戸) | 2・3 諸要求実現国民集会 (日比谷公会堂) |
| 1・23 平和の会理事会 (麗花) | 2・11 百里初午祭 (百里平和公園) |
| 2・1 県平和委理事会 (水戸) | 2・22 中国学習会第1回 (水戸市民会館) |
| 1・31 有事法制・イラク攻撃反対緊急中央集会
(日比谷野外音楽堂) | 3・8 中国学習会第2回 (水戸市民会館) |